

令和2年度厚生労働科学研究費補助金  
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業  
HPVワクチン接種後に生じた症状に関する診療体制の整備のための研究に関する研究  
分担研究報告書

(課題名) 東北大学病院脳神経内科における診療実態

研究分担者 青木 正志 東北大学大学院医学系研究科神経内科教授

研究要旨

【目的】令和2年度における東北大学病院脳神経内科における子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑われた患者の診療実績を調査する。またその病態を検索する。

【方法】上期間内に当科へ紹介となった子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑いの新規患者は0名であった。

【結果】平成27年度は4名の症例が外来受診された。平成28年度も4名が外来を受診されたが、平成29年度は1名、平成30年から令和2年度は0名であった。いずれも神経学的所見では明らかな異常は指摘できない。当院を受診する子宮頸がんワクチン接種後の神経障害疑いの患者の受診は減少している。

【結語】継続して注意深い診療をしていく必要がある。

A.研究目的

令和2年度における東北大学病院脳神経内科における子宮頸がんワクチン接種後の神経障害が疑われた患者の診療実績を調査する。またその病態を検索する。

B.研究方法

平成27年4月から「子宮頸がんワクチン接種後の神経障害に関する治療法の確立と情報提供についての研究班」(池田班)に参加をして、当院婦人科と共にヒトパピローマウイルス(HPV)感染症の予防接種後に生じた症状の診療に係る協力医療機関となった。平成28年度以降の東北大学病院脳神経内科におけるHPVワクチン接種後の神経障害が疑われた患者の診療実績を調査する。また本病態の成因を検索する。

(倫理面への配慮)

患者個人情報取り扱いに関しては匿名化を行っている。

C.研究結果

平成28年度は新規受診患者4名が外来を受診されたが、平成29年度は1名であり、平成30年度および令和元年度は0名であった。いずれも神経学的所見では明らかな異常は指摘できない。平成30年度は再来患者は1名であ

ったが、令和元年、および令和2年度は再来患者0名であった。当院におけるHPVワクチン接種後の神経障害疑いの患者の受診は減少している。

D.考察

東北地方における患者相談窓口として問い合わせには継続して応じている。一方当院におけるHPVワクチン接種後の神経障害疑いの患者の受診は減少している。

E.結論

継続して注意深い診療をしていく必要がある。

F.研究発表

I 論文発表

なし

II 学会発表

なし

G. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得：なし

2. 実用新案登録：なし

3. その他：なし